

学生実習室におけるパソコン利用環境

1C-1

木村 清

尚綱女学院短期大学

1. はじめに

近年、情報関係学科を設置していない女子短大でも、社会的要請などから情報処理関連科目の設置、コンピュータ実習室の設置などが盛んに行われている。

一口に情報処理教育といっても、その内容は計算機理論やプログラミングから、情報社会の一般常識程度のもので多岐にわたっている。

本学のような女子短大の場合、修学年数、就職先の職種などを考えると、情報処理教育の現場では、プログラミング教育よりも、ワープロなどのOAソフトの助けを借りて、情報社会に向けて集立つためのインシエーションを行うのが適当であろう。このような見地から、学生の実習用の環境は、ホストの端末ではなく、パソコンをベースとするものが適当である。また、OAソフト自体が教育の目標とならないようにするためにも、科目履修者以外の学生も自由意志でパソコンに触れられる環境作りも重要である。

本学においては、図1に示したようなスタンドアロンパソコンを設置した学生用の実習室を2部屋用意し、授業並びに学生の個人利用に供している。

ここでは、これらの実習室の利用環境を提供し、かつ利用状況を把握するためのシステム(SLIMS: Shoukei/Stand-alone Log Information Management System)を開発したのでその概要を報告する。(図2参照)

2. 利用環境

SLIMSの特徴(目的)は単なるログ管理だけではなく、本学学生を対象としたユーザフレンドリな利用環境を提供することにある。利用者はSLIMSで提供されるメニューから目的のアプリケーションを選択する。

図3に実習室Aの場合の操作の流れを示す。

機器仕様の異なるA、B2つの実習室どちらに行っても同じ操作で利用できるように配慮してあることは言うまでもない。

個人ディスク: 利用者は授業、個人利用に共通に使用するディスクを持参する。このディスクには登録時にID、パスワードが、またワープロの初歩の実習内容に合わせた日本語辞書と、書式設定ファイルが作成される。これによって、日本語変換、書式などの環境も個人専用のものとなり、不特定多数が利用する実習室の弊害を低減している。

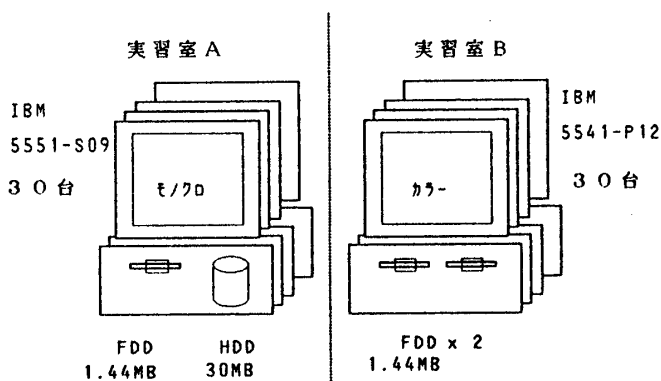


図1. 実習室の機器構成(本体部)

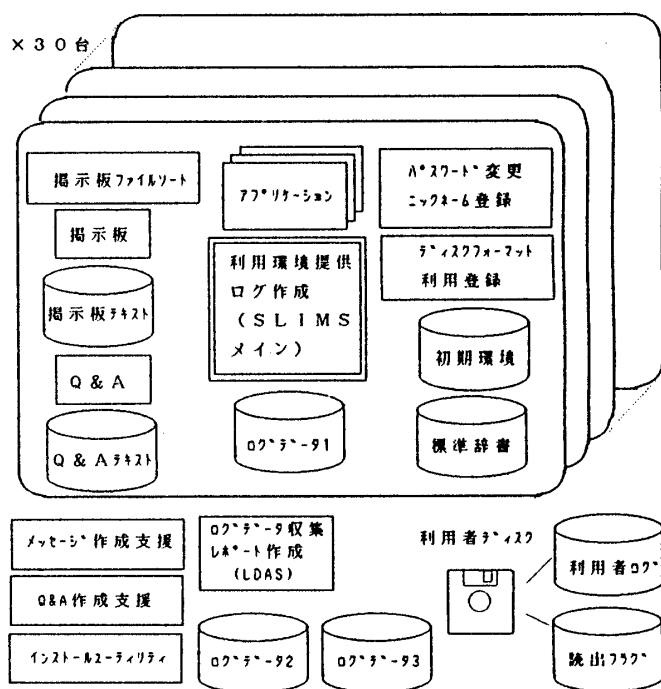


図2. SLIMSの全体構成(実習室A)

A user environment of personal computers for college students

Kiyoshi Kimura

Shokei Women's Junior College

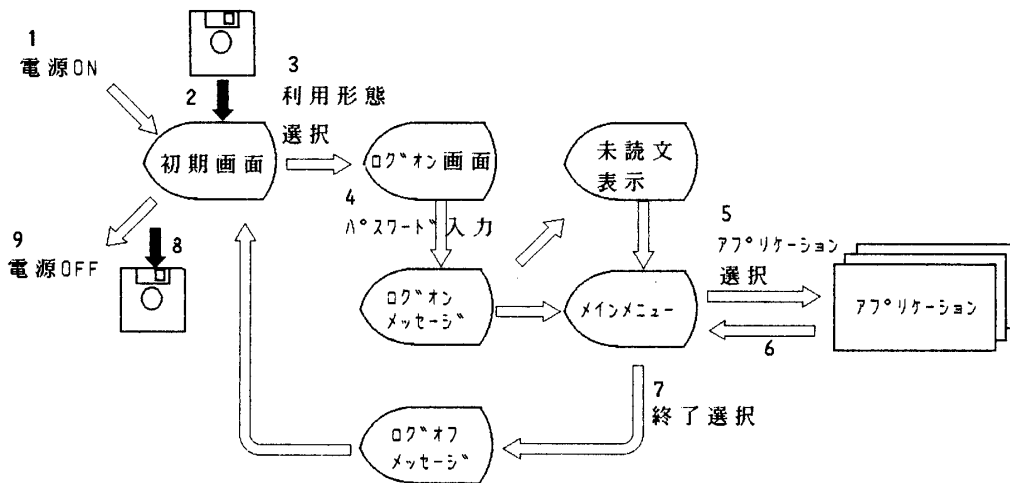


図3. 利用者から見た操作の流れ
(実習室Aの場合)

ログオン、ログオフ: 現在は課金制をとっていないため、この作業は特に必要なものではない。しかし、今後、パソコンがネットワークの一部として機能する時代になること、学生が社会に出てネットワーク上でコンピュータを利用する際の最低限のマナーを模擬的にも体験させるという意味から、わざわざ意識的にログオン、ログオフを行わせている。ログオンはパスワードで行う。

ログオン時には、時刻と、利用頻度に応じたメッセージを出すことで、親しみやすさを強調した。さらに学生が自分でニックネームを登録すると『〇〇さん、お久しぶりです』などとメッセージを出すなど、遊び心を取り入れた。

ログオフ時には、利用したアプリケーションの利用時間を本人の累積利用時間とともに表示し、自学自習の動機付けを狙っている。

電子掲示板: ログオン時に未読メッセージがあった場合、それを表示してからメインメニューへ進む。利用上の注意事項や連絡事項を徹底させる上で、通常の掲示板に変わるものとして有効に機能する。またオンラインで情報を受け取るということを模擬的に体験させる意味も兼ねている。これはメインメニューからも利用できる。

Q&A: プリントの形でQ&Aを用意してもあまり利用されず、また内容も常に追加されるものなのでオンラインでQ&Aを提供している。このような試みは、実際にどの程度利用されるかを把握する必要があるため、ログ管理の対象としておき、利用状況を把握するようにしている。

3. 利用管理 (ログ管理)

ハードディスクごと (実習室A)、アプリケーションのシステムディスクごと (実習室B) に以下の内容からなるログファイルを作成する。(1回のログにつき1レコード作成)

ログファイルの内容

利用者ID (授業の場合は"LESSON"に統一)
利用月日、ログオン時刻、ログオフ時刻
アプリケーション毎の利用時間 (全10フィールド)

集計時には、一旦個々のハードディスクからシャトルディスクと呼ぶフロッピーディスクにファイルをコピーし、オフラインで集結する。

アプリケーション毎の利用時間のデータがとれるため、利用実態をきめ細かく把握することができる。

一方個人ディスク内には、アプリケーション毎の最近の利用日と累積利用時間、それに電子掲示板の読み出しフラグ情報を記録する。これによって、スタンドアロン設備でありながら、60台のパソコンいずれを利用しても適切なメッセージを受けることができる。

4. まとめ

女子短大の実状に合わせたパソコン実習室の利用環境提供・ログ管理システムを開発した。

利用環境はユーザフレンドリネスを特徴とし、また、スタンドアロンでありながら電子掲示板などネットワーク環境を模擬的に演出した。

実際に利用した学生らは、利用時刻や利用頻度に応じてログオン時メッセージが変わることに興味を抱いている。

またワープロ検定など自分でワープロを習得しようとしている学生にとって、累積利用時間が示されることで学習の励みになっているようである。

とかくOAソフトなどのアプリケーションを使用することのみに終始しがちな風潮の中で、ここに述べたような利用環境を提供することで、単なる使いやすさ以上の効果があるものと期待している。